



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC)

分科会へのご案内 (会員による自主講座)

第9回

ローラ・ボベスコ (1921—2003) 全2回

その1 バロック音楽

略歴

ルーマニア出身のベルギーのヴァイオリニスト、ブリュッセル音楽院教授。天才少女として父親の伴奏によりデビューした後、13歳でパリ音楽院に入学。

1937年(16歳)イザイ・コンクールで第7位入賞し、世界的に有名になる。バロック音楽とフランス音楽を得意とするが、演奏範囲は多岐に亘る。

ローラ・ボベスコはヴァイオリン界の妖精とか貴婦人とか言われ、演奏はエレガントと言えますが、他の同世代の女流名ヴァイオリニストが行っていない録音を結構残しており(1,3,4,5)、弾き振りで演奏したり(4,5)、カデンツァを作曲したり、演奏家として8回も来日する等(3)、際立ったところがあります。

録音は1980年代(60歳代)のものが殆どですが、廃盤になっているものが多い中、最近、小品集ですが1961, 62年(40, 41歳)録音のものが発売されましたので、そのうちの幾つか(1,2)も聴いてみましょう。

演奏曲目

- 1 ルクレール ヴァイオリン・ソナタ 二長調 op.9-3 (mono)
- 2 タルティーニ ヴァイオリン・ソナタ ト短調「捨てられたデイド」(mono)
- 3 ヴェラチーニ ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 op.2-8
- 4 ヴィヴァルディ 「四季」から「秋」「冬」(LP 独 SASTRAPHON)
- 5 J.S. バッハ ヴァイオリンとオーボエの為の協奏曲 二短調 BWV1060



往年の女流
名ヴァイオリニストによる
演奏を聴く

日時 / 10月12日(日) 13:30~15:30

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 霜鳥 晃 シリーズ全13回(予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>